

【安全・交通（手洗い・熱中症・公共マナー）】

実践① 3歳児（手洗いから健康で安全な生活をする事の大切さを知る）

テレビや周りの大人の話で、コロナという言葉を知ったA児が、登園してきたB児に「コロナやから、こども園に来たら手は洗わんなんで」と伝えているが、B児は周囲の遊んでいる友だちの方ばかり見て、一向に手洗いをする様子がなかった。保育者が「A君の言うとおりのやね、まずしっかり手洗いをしてから遊ぼうか」と声をかけると、B児はカバンなどの荷物を置き、手洗い場に貼っている手洗いの手順を見ながら手洗いをし始めた。

子どもたちの様子を見て、正しい手洗いの習慣がついていないクラスの子ども達に、看護師から3歳児に分かるようにコロナの話と手洗い指導をしてもらう機会を作り、全員でしっかり手を洗う活動をした。その後、登園してきた子ども達が、一人ひとりにきれいに洗えているかお互い声を掛けあっていった。

(成果)

- ・手洗いの必要性に気づき、しっかり手洗いをしようとする姿が見られるようになった。
- ・手洗いをする事でコロナだけでなく、風邪やインフルエンザ等の病気から自分の体を守ることを知ることができた。
- ・クラス全体で取り組むことで、周りの友だちのことも気に向け、「一緒に手洗いしよか」、「ばい菌おとさんとあかんな」など声を掛け合って手洗いをするようになってきた。

実践②（熱中症・感染対策）

夏の暑い時期の熱中症にならないための過ごし方や今のコロナ禍での健康な過ごし方について話し合う時間を継続して作り、病気にならないためにどんなことが必要かをクラスで考え、行動に移せるようにしている。休息を取ったり、手洗い・うがいを丁寧にしたり、食べ物についても関心が持てるようにしたり、健康な毎日の生活を意識して続けていけるように、自分たちでできたことを認めながら、自分たちで考えた生活が送れていることを実感できるようにしている。

実践③ 4歳児（グリーンスローモビリティでお出かけ）

市内の観光名所を、グリーンスローモビリティ（低速走行の電気バス）で周回する市の試みが行われていたので、園外保育の一環として行う“町探検”の移動手段に利用した。徒歩で散策する時と比べ、違った視点で身近な地域を見ることができた。また、乗務員や観光客も同乗されていたので、挨拶をしたり会話を楽しんだりしながら、公共の場におけるマナーを学ぶ機会となった。